



企業カランクアップ事業「認証企業の紹介」

現在、企業カランクアップ事業の認証企業は2009年度57社と2010年度46社の計103社である。
このコーナーでは、その中からピックアップして紹介している。

壬生町

商工会経営品質認定 証第11-14-02号

株式会社 まるつね

住所：下都賀郡壬生町壬生甲3491-2

電話：0282(82)0224

事業内容：農産乾物(切り干し大根・干瓢・干し芋など)・青果(ぎんなん・たけのこ・しいたけなど)の加工・卸

生産履歴の見える化で「食の安全」欲求に対応



「6年前の社長就任時には40人いた従業員が、今は10人。事業の選択と集中で贅肉を落とし、スリム化を図ってきた」と戸崎泰秀代表取締役社長



まるつねの商品群
右から宮崎産切り干し大根、栃木県産干し芋、たけのこの水煮、ぎんなんの水煮(下)

一 認証の審査を受けてみていかがでしたか。

昨今は、いつ、何が起ころうとも不思議ではありません。常に危機感を持って事業運営に取り組んでいますが、組織の内側にいると、得てして問題を見落とすことがあります。専門家に第三者の目で客観的に確認してもらうことは、この見落としを発見する良い機会だと捉えています。

一 経済が低迷していますが。

バブル期に膨張した乾物の商品ラインナップが、長引く景気低迷に対応できず経営を圧迫したことを反省し、平成15年頃から、新しい体制づくりと商品開発に着手しました。食の安全安心を担保する仕組みとして、QRコードを使った独自の生産履歴追跡システム「畑の履歴書」の開発や、地元運送会社との提携により受注当日加工・冷蔵納品を可能にする流通システムを構築しています。商品開発では、たけのこの水煮加工で培った技術を他の山菜にも展開しており、最近、ぎんなんの水煮を商品化しました。また、栃木県産の完熟野菜を自然乾燥加工した料理用・菓子材料の商品化にも取り組んでいます。

一 今後の方向性は？

得意分野である乾物と水煮の分野を軸に、栃木県の良さを生かした商品作りに取り組むと共に、放置竹林問題や荒廃山林の再生に、食品加工会社の立場から貢献していこうと思っています。

<担当職員・大塚博主任から一言>

「日本食の伝統を守り かつ革新し、新たな価値をつくりだす」という理念のもと、様々なアイデアで革新を続けている企業であり、今後ますますの発展が期待できる企業です。

うつのみや市

商工会経営品質認定 証第11-04-01号

株式会社 かみかわち温泉振興会

住所：宇都宮市今里町18-4

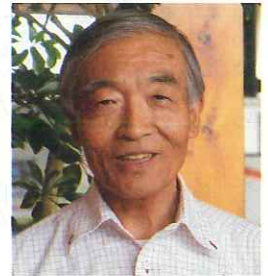
電話：028(674)8963

事業内容：上河内地域交流館(ほたるの里 梵天の湯)の管理運営

地元資源の活用で地域活性化に貢献



夕暮れに映える上河内地域交流館「ほたるの里 梵天の湯」



「集客の目玉づくりとして、来年は花畑の整備を予定している」と笹沼高壽代表取締役

一 「経営における社会的責任」の取組みが高く評価されました。

当社は、地域で出資者を募り、地域振興と活性化を目的に組織されました。公的施設である地域交流館の指定管理者として、来館するお客様に、気持ち良く寛いで頂き、良い思い出を作って頂くことを責務として取り組んでいます。ゴミ減量化が認められ、宇都宮市が制定したエコレストラン1号店の認証を受けると共に、食材使用などでは、うつのみや地産地消認定店を取得しています。

一 景気が低迷していますが。

ここ数年の入浴者数は年間23万人前後で推移しています。この数字は、関係団体と密接に連携・協力しながら行ってきた、サマーフェスティバルやホテル観覧会、体験農園など多様なイベントの開催や、ホームページによる近隣の観光資源案内、地域情報の発信などを通して、都市住民の勧誘を行ってきた結果だと自負しています。地域資源を掘り起こし、魅力ある日帰り温泉施設としての知名度を高め、「おもてなしの心」を大切にして、より一層のCS向上を進めてまいります。

一 今後の方向性は？

今後益々高齢化が進んでいきます。「絆」をキーワードにして新たなイベントを開発し、お年寄りを大事にする施設としての認知度を高めていこうと考えています。

<担当職員・見形和幸主任から一言>

「安らぎの場」の創造を目指して、快適性・清潔感を重視した環境づくりに取り組むと共に、「梵天の湯に行くとおもしろい」をキーワードに、いろいろな自主事業を企画・運営している企業です。